

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103870
法人名	株式会社 スローライフ
事業所名	ぐるうぼうほうむ3丁目
所在地	松山市水産町631番地
自己評価作成日	H24年7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年8月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気を大切にし、利用者さん同士、声を掛け合い一人ひとりの役割が持てるように生活支援をしている。畑で作った野菜が食卓に上がった時、お花を育ててお部屋に飾ったりしながら、季節感が感じられるようにしている。引越しをしてまだ間もないため、散歩や外出を通して地域の方々とは触れ合っているように支援していきたい。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 利用者の中には重度化に伴い夜中、大きな声を出すような方があり、その方に対して、叩いたり、きつい言葉を発するような利用者があったが、管理者はその方に、「私たちと一緒にその方をお世話していただけませんか」と、法人で行われる外部講師を招いての研修会にお誘いして、職員と一緒に介護について勉強をされた。研修を受けて、「わたしは、〇〇さんに悪いことをした」と、職員に話され、その後は、関係もよくなり、食事のお世話等、職員と一緒に、その方が亡くなるまでお世話をされた。研修時、ご本人が熱心にメモを取っているところが講師の目に止まり、メモを清書されて講師に送ったり、お返事をもらったりしてやりとりされて、居室には講師と撮った写真も貼っておられた。
- 節分の行事の機会をきっかけに、重度化した状態にある食堂をされていた利用者の方と一緒に手打ちうどんを作り、ご本人のご家族には、「最後になるかもしれない」ことを伝え、お誘いしてうどん等を振る舞われた。「まさか、母が作ったうどんを食べられるとは」と、感激されたようだ。その後、3月に事業所で看取られた。ご家族の許可も得て、ともに暮らした仲間として、利用者、職員も参列され、ご本人にお別れをされた。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ぐるうふほうむ3丁目

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

増田 佳子

評価完了日

H24 年 7 月 31 日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所理念に沿った実践が出来るように努力をしている。ミーティング等を利用し、管理者と職員の理念の共有をしていきたい。	
			(外部評価) 「人生の継続性を大切にし 自分が自分として生きていく」と、法人全体で理念を掲げておられ、事業所入口に掲示されており、事業所便りにも、毎回示しておられる。管理者は、「職員には、利用者のありのままを受け入れ、支援してほしい」と、思っておられる。又、「利用者が暮らす姿やケアを通して職員自身、向上していったほしい」と思っておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 引越しをして1年が過ぎたが、利用者さんがご近所さんと畑を通して、談笑したり、収穫した野菜をお裾分けしたりして、交流している。また、地域の夏祭りや秋祭りなどの行事にも参加したり、散歩で出会った際には挨拶やお声かけをして、交流している。	
			(外部評価) 管理者は、利用者の暮らしを支えるということは、「事業所内で完結することではない」と、実感されており、利用者が地域資源とつながりを持てるような支援を目指して努力されている。利用者が、菜園で作業していると、塀越しにお隣の方が声をかけてくださることもあり、利用者は、野菜が実った時には、自らがお隣のお宅におすそ分けに行かれる。職員は、その様子をそっと見守りながら、後からごあいさつに行き、利用者が直接近所の方と関係が作れるよう、さりげなくサポートをされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症の相談や見学はいつでも対応させて頂いているが、外部より講師を招き、研修会(認知症に関わる)を行っている。その時は、地域の方や地域包括センター、他の事業所にも案内し、利用者さんや職員も一緒に研修を受けている。今後も機会を作っていきたい。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を行っている。ご家族・ご近所・地域の役員さん・行政・地域包括への案内をし、参加して頂き、報告や話し合いを行い、ご意見等を頂きながら、サービスの向上に活かすよう努力している。	
			(外部評価) 区長からの提案もあって、地区内にある法人内3事業所が共同で会議を行っておられ、地域から区長、民生委員、婦人教育部長、分館長等が参加してくださっている。会議時には、各事業所から利用状況や日々の暮らしの様子、看取り等の取り組みを報告して意見をうかがうようにされている。	現在、ご家族への会議案内はされていないが、ご家族の立場からの意見や要望は、事業所のサービスをよくしていくためにも大切であり、今後は、ご家族の会議参加も働きかけてほしい。又、利用者が地域の中で暮らしを拓げていくためにも、会議を活かして、地域のいろいろな方と知り合ったり、関係を深められるよう、会議のすすめ方を工夫されてはどうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議等を通じて、ホームの現状や取組みなどを伝え、情報交換に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者が、食中毒や感染症等についての注意事項を説明してくださったり、他事業所での感染症対策の例を話してくださったこともある。市の移動図書館が、近隣の系列ホームに来てくれるようになっており、管理者は今後、「読書のお好きな利用者をお連れして、利用したい」と考えておられた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 現在、身体拘束の事例はなく、身体拘束はをしないケアに取り組んでいる。今後、勉強会を行いながら、職員一人ひとりが正しい理解が出来るように努力していきたい。	
			(外部評価) 2年前頃は、床ずれのある利用者もおられたが、その後、管理者は職員とともに食事や生活、ケアを見直し、状態の改善に取り組まれ、今では床ずれのある利用者はおられない。管理者は日々の中で、職員の気になるような対応や言葉かけ等がみられた時には、その都度注意されたり、一緒に考えるようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 理念を通し、利用者さんを尊重した介護に努め、未然防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、成年後見制度については必要な状況ではないが、必要であれば包括支援センターなどと相談できるようにと考えている。研修会で学ぶ機会を持つこともしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には、本人・家族へ十分説明を行い、理解・納得頂いて契約するようにしている。また、契約後でも、何か不明な事に関してはその都度対応するようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 特に機会を設けていないが、面会時に近況を伝えたり、ご家族の要望などお聞きし、実践していくように努力している。ご意見箱も設置している。	
			(外部評価) 管理者は、「事業所の思いや利用者の日々の様子をご家族にもっと知っていただきたい」という思いから、利用者個々に写真をまとめてアルバム作りに取り組まれた。さらには、不定期ではあるが、新たに、ホーム新聞、「私の三丁目」と、利用者個々に毎月、「利用者新聞」を作り、写真をふんだんに載せ、カラーでご家族に送付されている。又、利用者新聞とともに、「サービス計画書モニタリング表」を送付して、介護計画についても経過報告されている。利用者新聞を見たことが、来訪のきっかけになったご家族もあったようだ。道後の会館で利用者と忘年会を行う際には、ご家族にも案内して、昨年末は2家族が参加してくださった。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月に1回のミーティングの際に意見を出し合う機会を設けている。7月より各ユニットのリーダー会を設置したので、職員の意見・提案を聞き、運営に反映させていきたい。	
			(外部評価)	
			この2年間は、「職員の定着」に力を入れて取り組まれた。運営体制についても、管理者とは別に、現場職員をまとめる役割の主任を配置して、新たに体制を作り取り組まれている。看取り時期に入った利用者があった際、管理者は職員に利用者の事情等をお話して、看取ることについて職員の考えを聞かれた。職員は、ご本人の事情やご家族の思い等を理解して了解され、一丸となって支援に取り組まれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			今年度より、本部より1名と管理者とで職員一人ひとりと面談を行い、希望や要望を聞き、職場環境・条件の整備に努めている。	
			(自己評価)	
			研修を受ける機会を積極的に設け、参加しやすくしているが、職員の人数が少なく、なかなか難しい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			機会があまりないが、外部の研修の際には交流を行っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用開始前の訪問や事前の面談で、ご本人やご家族に困っていることや不安に思っていることがないか、十分に話をさせてもらい、安心が確保できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の面接で、十分に話を聞き、ご家族の意向や要望に耳を傾け、話やすい関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前の面接で、ご本人やご家族と話し合い、必要な支援を把握し、他のサービス利用も含め対応するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来ることは出来る人が行えるように、また、時間がかかっても自分の事は自分で行えるように生活の支援を行いながら、暮らしを共にする者同士の関係を築く努力をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 普段の会話を大切に、その中でご家族の話題を取り入れるようにしている。節目の行事や忘年会にはご家族にも声をかけ参加して頂き、ご本人・ご家族・職員で他の市時間を共有できるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 引越しをして1年になるが、ご近所の方と利用者さんが顔なじみになってきたように思われる。今まで関わってきた病院に受診したり、ケアマネさんに会えるような環境を作っている。 (外部評価) 利用者の中には重度化に伴い夜中、大きな声を出すような方があり、その方に対して、叩いたり、きつい言葉を発するような利用者があったが、管理者はその方に、「私たちと一緒にその方をお世話していただけませんか」と、法人で行われる外部講師を招いての研修会にお誘いして、職員と一緒に介護について勉強をされた。研修を受けて、「わたしは、○○さんに悪いことをした」と、職員に話され、その後は、関係もよくなり、食事のお世話等、職員と一緒に、その方が亡くなるまでお世話をされた。研修時、ご本人が熱心にメモを取っているところが講師の目に止まり、メモを清書されて講師に送ったり、お返事をもらったりしてやりとりされて、居室には講師ととった写真も貼っておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共に生活しているということを感じていただけるように、利用者さん同士が関わりあえるように職員が間に入るなどして、援助している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 現在はないが、必要があれば相談・支援が行えるように支援していくよう努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 何気ない会話や、普段の様子から、本人の思いや暮らしの希望が把握できるように努めている。ケアプラン作成時には、本人の希望やしてほしいことを聞きとるようにしている。 (外部評価) 事業所では、利用者個々の個性等も踏まえながら支援できるよう取り組んでおられ、「職員がやってくれることを期待する」利用者には、できるだけご自分の意思や力で行動できるよう、時には気付かないふりをしながら見守っておられる。誕生日の日の希望をお聞きすると、「みんなにごちそうを振舞ってあげて」と希望される利用者の方がおり、みなでお寿司やサンドウィッチ等を作り、ビールもお出しし、系列ホームの利用者や職員も誘って賑やかに祝いされたこともある。他利用者の葬儀に参列した利用者からは、「さみしい思いをしなくてもすむから、私もここで最期を迎えたい」という声も聞かれたようだ。	現在は、利用者の気持ち等を日々の介護記録に書き留めるよう努めておられるが、介護計画につなげていくような取り組みには至っていないようである。事業所では今後さらに個別で細やかな支援を目指していきたいと考えておられ、利用者一人ひとりについて、「これまで・現状・これからのこと」の情報収集に取り組み、利用者一人ひとりが「自分が自分として生きていく」ためにも、支援を拡げて取り組んでいかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面談等で、本人や家族に聞いたり、担当の関係職員(主治医やケアマネ)にも伺いながら把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活支援の中で、一人ひとりの様子や心身の状態の把握に努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日頃より職員同士で情報交換をしっかりと行うようにしている。また、ミーティングを利用し、利用者本人の状態や思いを確認したり、相談したりしながら、現状に即した介護計画を作成している。家族にも希望や意見を伺い、プランへ反映するようにしている。	
			(外部評価) 利用者個々の担当職員が介護計画を作成しておられ、半年ごとに見直しておられる。毎月のミーティング時には、利用者一人ひとりについて、職員の気付きや気になることを出し合い話しておられ、モニタリングとされている。ご家族には、介護計画の原案をお見せして意見を聞くようにされており、反映して計画を作っておられる。又、毎月ご家族には、「サービス計画書モニタリング表」を送付して、支援の進捗状況を報告されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子等を個別の介護記録に記入し、職員間で情報を共有し、ミーティングや申し送りなどで確認・相談しながら、実践や見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況や希望に添えるように話し合いながら、柔軟な対応を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方や地区の役員さん、地域包括の方などにアドバイスを頂きながら、安全で安心した生活が送れるように支援するように努力している。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 受診は本人・家族の希望を大切にし、かかりつけ医に受診できるようにしている。受診時には家族かスタッフの付き添い、また、往診なども利用しながら、相談・助言を頂きながら適切な医療が受けられるように支援している。	
			(外部評価) 訪問診療を受けている利用者の看取り支援の際には、医師から利用者の状態変化等の過程について説明していただいたり、どのようなことを観察したらいいか、ということをお教えしていただいた。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 職場内の看護師資格がある職員に気付いたことや心配な事などを相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には、出来るだけ顔を出して安心して貰えるようにし、また、出来るだけ早期に退院できるように病院関係者の方に様子を伺い情報交換に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に説明させて頂き、考えていただくようお願いしている。また、その時その時で本人・家族と話し合いを行い、希望に添えるように主治医との連携や環境を整えるように支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) 節分の行事の機会をきっかけに、重度化した状態にある食堂をされていた利用者の方と一緒に手打ちうどんを作り、ご本人のご家族には、「最後になるかもしれない」ことを伝え、お誘いしてうどん等を振る舞われた。「まさか、母が作ったうどんを食べられるとは」と、感激されたようだ。その後、3月に事業所で看取られた。ご家族の許可も得て、ともに暮らした仲間として、利用者、職員も参列され、ご本人にお別れをされた。その後の運営推進会議時には、支援の様子を報告され、民生委員の方からは、「グループホームで看取りをしてくれるとは思わなかった」というような感想もあったようだ。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応マニュアルがあるので、十分に活用できるように今後、ミーティング等で身につけていけるように努めている。地域の救命救急の講習への参加を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を行っている。地域の人にも参加して頂けるように、運営推進会議時に行うようにしている。 (外部評価) 消防署の協力を得て行った避難訓練時には、「備蓄のことや、職員自身の身の安全確保・連絡網の整備・地域との協力体制」等についてアドバイスをいただいた。職員からは、「実際の場面では動けないと思った」等の感想もあったようだ。事業所では、いざという時には、裏の外階段から避難するようになっており、今後は、「実際に利用者も外階段を使って降りるような訓練を行いたい」と考えておられた。	さらに、事業所では今後、「月に1回程度の避難訓練に取り組みたい」と考えておられる。地区の区長の方からは、地域との協力体制についてアドバイスいただけそうであり、運営推進会議等も活かして、話し合い等を重ねられ、利用者、職員、地域の安全安心に向けた体制作りに取り組んでいかれてほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応を心掛けている。 (外部評価) 居間での雰囲気を感じて、居室に戻る利用者や、又、ご自分の意思で居間に出て来られる利用者等、ご自分の意思で過ごせるよう、強制することなく支援されている。調査訪問時、昼食後、「わたしはお部屋に戻ります」と、職員に伝えて居室に入っていく利用者の様子もみられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人の思いや希望を表わせるように働きかけたり、支援を行う際には、必ず本人に声をかけたりして、自己決定出来るように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) さりげなく声をかけたり、様子を見たりしながら、本人のペースを大切にしながら暮らしが送れるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望を聞きながら、時にはアドバイスをを行い、好みに合った身だしなみができるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事が楽しみなものになるように、出来るだけ利用者さんに食べたい物を聞きながら、献立をたてるようにしている。また、食事の準備や片づけを利用者さんと一緒に行うようにしている。	
			(外部評価) 食事のメニューは、職員・利用者で決めて、事業所の菜園で収穫した野菜を使ったり、職員がスーパーに買い出しに行かれたりして手作りされている。持病のある方には、てんぷら等の揚げもの時には、衣を外して食べてもらえるよう声かけされている。やわらかめに煮たり、利用者によっては、ご飯をおかゆにされたり、箸とスプーンを付けて、できるだけご自分で食べられるように支援されている。食事時間は、テレビを消して、静かに食事することが習慣になっておられ、それぞれがご自分のペースで食べておられた。職員も一緒のテーブル席で同じものを食べておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活健康表に食事量等を記入し、状態の把握をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後はその人に応じた口腔ケアが実施できるように声かけや支援を行うように努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄チェック表を利用し、一人ひとりの排泄のパターンを把握し、声かけや介助を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価)	
			居室にパットや紙パンツ等を用意して、ご自分で交換する方もいる。ふた付きのバケツを置いて、ご自分で処理できるようにされていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			出来るだけ水分を多く摂る、食事の工夫、歩く機会を多く摂るなど、ここに応じた予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			声かけを行いながら、出来るだけ希望に合わせた入浴支援を行っている。その人に合った入浴が出来るように配慮している。	
			(外部評価)	
			午後からが入浴時間となっており、毎日入浴する方、2日おきの方、入浴を嫌がるような方は3日おき等、それぞれに合わせて、着脱や動作等、入浴一連の流れにゆっくり時間をかけ支援されている。利用者が入浴に気が向いている時には、優先して入浴できるようにして、気持ちよく入浴できるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			一人ひとりの習慣や体調に応じて、休んだり安眠できるように支援している。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を一人ひとりの記録表に挟んでおり、薬の目的や副作用等について確認するように努めている。服薬の確認や症状の把握にも努めている。また、分からないことがあれば主治医と連絡を取り指示を仰ぐようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来るだけ本人のしたいことや出来ることをして頂けるように環境を作ったり、気分転換出来るように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 出来るだけ希望にそって戸外に出かけられるように努めている。また、お誕生日を利用し、本人の行きたいところへ出かけられるように努めている。	
			(外部評価) 菜園で作業されたり、お誕生日の日には、利用者個々の担当職員がご本人の行きたいところを聞き取り、2人で出かけておられる。コーヒーのお好きな方は職員と一緒にコーヒーを飲みに行かれたり、買い物や回転寿司を食べに行く方もある。	管理者は、今後、散歩等の機会を増やして、「利用者ご自分から、地域のいろいろな方と関係を作っていけるようなサポートをしていきたい」と考えておられた。又、散歩を通じて、「地域のことをもっと知り」「利用者の体力の維持向上」にも努めたいと考えておられた。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金はホームにてのお預かりだが、欲しいものがある時には、職員と一緒に買い物に出かけ、レジでお金を払ったりお釣りを貰ったりと、出来る範囲で支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙や年賀状、暑中見舞いなどを通し、家族や大切な人とやり取りが出来るように努めている。また、電話も希望があればかけられるような環境である。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			自宅にいるような落ち着いた居心地の良い雰囲気作りに気をつけている。	
			(外部評価)	
			居間には神棚を設け、榊を供えておられ、朝夕に手を合わせる利用者もいる。居間の窓はお隣からの要望もあって、常時カーテンを引いておられるが、時には東側にある空間で朝食をとる等されている。敷地内には、花壇や菜園があり、北海道のひまわり畑から送ってもらった種を植えて育ててもらえたり、利用者が丹精された夏野菜が実っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			一人ひとりが思い思いの場所で過ごせるように配慮している。食堂で他の利用者さんや職員と過ごしたり、好きな事が出来るような居場所づくりをしている。	
			(外部評価)	
			入居の際に、使い慣れた馴染みのあるものを持って来て頂いたり、好みの物を置いたりして、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			お好きな演歌歌手やお花の写真を壁一面に貼って、お好きなものに囲まれ過ごしておられる方は、毎朝・昼にベッドに腰掛けて連続ドラマをみて楽しまれている。又、ご家族の位牌をタンスの上に並べて置き、祭っておられ、ベッド上やいすの上等に、いろいろな日用品や衣類をご自分が思った通りに置いて、ご本人が取りやすいようにされている方もあり、その方の以前からの生活環境も考慮して、職員は無断でいじらないようにされている。	
			(外部評価)	
			入居の際に、使い慣れた馴染みのあるものを持って来て頂いたり、好みの物を置いたりして、居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			一人ひとりの持っている力を把握し、出来るだけ自分で出来るように支援している。また、様子を見ながら安全で自立した生活が送れるように工夫している。	
			(外部評価)	
			一人ひとりの持っている力を把握し、出来るだけ自分で出来るように支援している。また、様子を見ながら安全で自立した生活が送れるように工夫している。	